

# 北海道病害虫防除所

令和元年(2019年) 7月



## ■北海道病害虫防除所設置等に関する条例

第1条 植物防疫法第32条の規定により、  
道に病害虫防除所を置く。

### ■北海道病害虫防除所の沿革

- 昭和27年 病害虫防除所設置 [ 14所を各支庁に設置 ]  
31年 [ 25所を各農業試験場(本場と支場)に配置 ]  
45年 14所を各支庁に再編  
平成3年 病害虫防除所の統合 [ 1本所(中央農試)・14支所(各支庁) ]  
13年 病害虫防除所支所の廃止  
[予察事業の事務は支庁、巡回調査は普及センターで実施する]  
16年 病害虫防除所を道立中央農試に統合、病害虫防除員の廃止  
22年 道立農試の地方独立行政法人(北海道立総合研究機構)化に伴い、  
農試から分離し、道農政部出先機関として中央農試庁舎内に駐在。  
発生予察事業の一部を北海道立総合研究機構に委託。

# 北海道病害虫防除所の主な業務

## 1 病害虫発生予察の業務

北海道立総合研究機構からの情報や札幌管区気象台からの気象予報等に基づき、農作物を加害する主要病害虫の発生量や発生時期の予測、必要な防除対策を**病害虫発生予察情報**として関係機関・団体に提供。（病害虫防除所HPにも掲載）

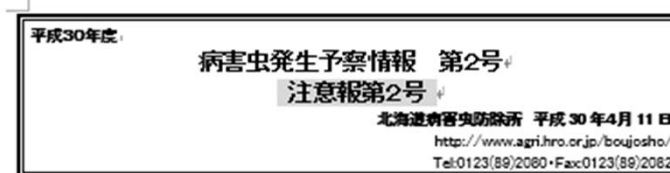
## 2 農薬安全使用の推進

農薬の適正な使用及び保管の徹底により、農薬による危被害の防止、安全な農産物の安定生産、環境の保全を図るため、毎年、防除指導の資料として**北海道病害虫・雑草防除ガイド**を作成。

## 3 国内未侵入病害虫の警戒調査

新規病害虫の国内への侵入や蔓延を未然に防ぐため、国の植物防疫所と協力して**侵入警戒調査**を実施。

## ●病害虫発生予察情報[注意報] .....



りんごの黒星病が早発・多発の恐れ！  
開花直前からの薬剤散布で一次伝染を抑えましょう！

平成29年は全道でりんごの黒星病による被害の発生が認められました。そのため、感染した感染源も多いと推測されます。今後の気象予報から、一次伝染源となる子づつ子の無数発生が早まると予想されるため、特に注意が必要です。

本病は春先に感染する子づつ子が一次伝染源となり、その被害などにできた表皮傷から分生子が飛散し、二次伝染します。そのため、一次伝染を抑えることが重要です。開花直前から開花期が重点防除時期です。また、重点防除時期以降の薬剤散布が平常になることで、後期感染や果実感染による被害が認められる場合があります。そのため、重点防除時期の薬剤散布はもちろんです。これ以降についても圃場での発生状況や天候の推移に注意して、追加防除を検討してください。

- |  |    |
|--|----|
| 1. 発生地域  | 全道 |
| 2. 予察される発生期  | 早  |
| 3. 予察される発生量  | 多  |
| 4. 注意喚起等の防除  |    |
| 1) 前年における本病の発生量が多かったため、枝や葉に形成された病斑で感染した感染源も多いと推測される。                                   |    |
| 2) 一次伝染源となる子づつ子の無数発生には、消雪日からの積算気温が影響すると考えられている。本年は3月の平均気温が高く、多くの地域で融雪は早まっているものと予想される。平 |    |

## ●主な侵入警戒病害 .....



# 病虫害発生予察調査と発生予察情報の提供

病虫害発生を予見し、合理的な対策を立てるため

- ① 各農試に設置した無防除の予察ほ場での定点調査、
- ② 一般ほ場での巡回調査、
- ③ 気象情報などに関連するデータにより「発生時期」や「発生量」を予測し、関連機関・団体に提供。

## 発生予察調査

主要病虫害の発生状況・被害状況を定期的に調査しています。

### 定点調査

地帯別の発生推移を解析するため、中央・上川・道南・十勝・北見農試及び花・野菜技術センターに定点ほを設置して調査。  
見取り調査に加えて、フェロモントラップ、黄色水盤、誘蛾灯などを利用して各種害虫の発生状況を調査。

### 巡回調査

一般圃場における発生状況を農業改良普及センターが調査。

### 現況調査

道内全域を対象に、発生状況及び被害状況を把握するため、農業改良普及センターが調査。

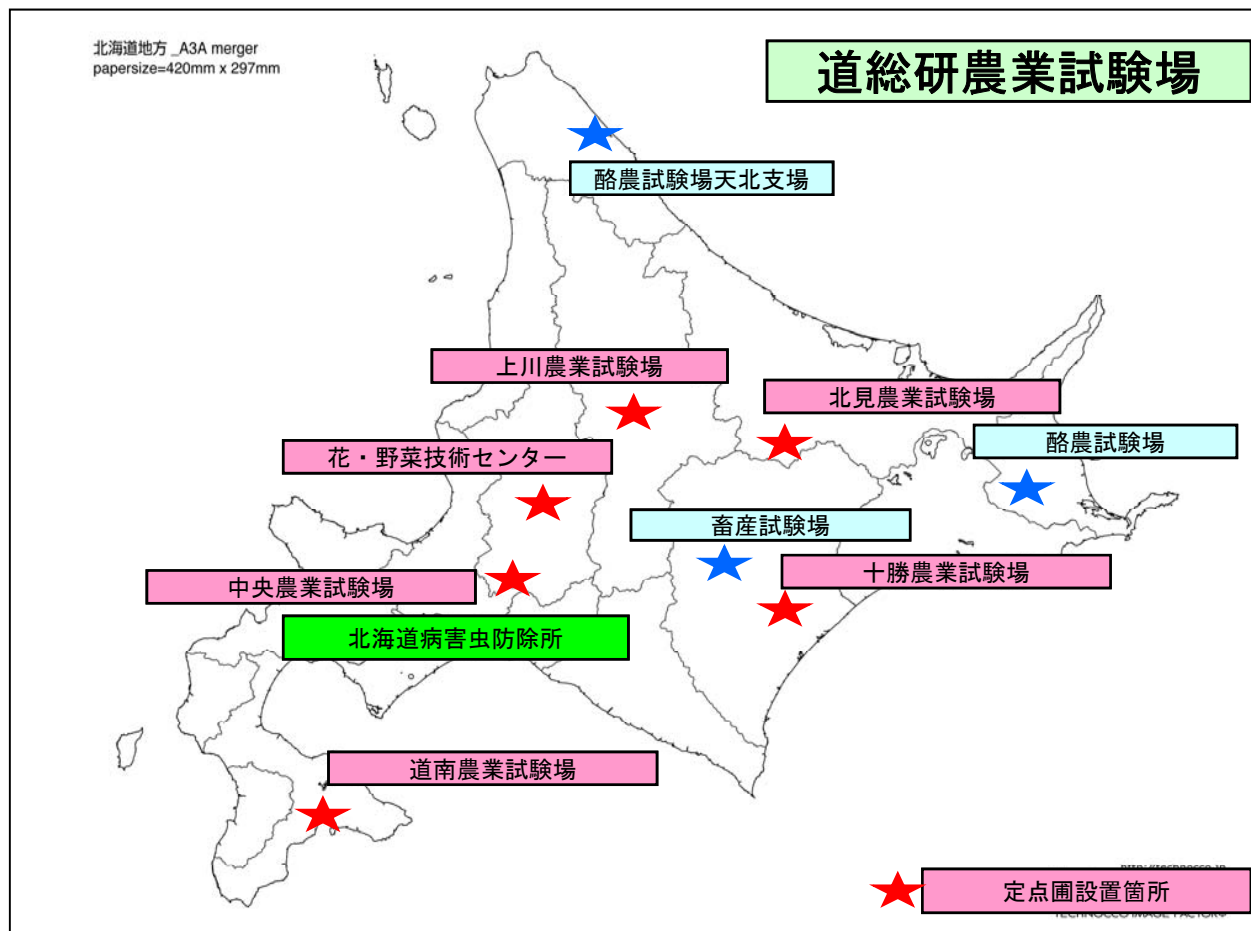
# 予察調査の主な対象作物と病害虫

水稻	いもち病、紋枯病、葉しょう褐変病 ニカメイガ、ヒメビウンカ、セジロウンカ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、コブノメイガ、イネドロオイムシ
麦類	うどんこ病、赤かび病、赤さび病、雪腐病 アブラムシ類
とうもろこし	アワノメイガ
豆類	菌核病、べと病、茎疫病、わい化病、黄化病、灰色かび病、落葉病 アブラムシ類、アズキノメイガ、マメシンクイガ、食葉性鱗翅目幼虫、タネバエ
ばれいしょ	疫病、軟腐病、黒あし病、そうか病、粉状そうか病、塊茎腐敗 アブラムシ類
てんさい	褐斑病、根腐病、そう根病、黄化病(旧:西部萎黄病) ヨトウガ、ネキリムシ類、テンサイトビハムシ、テンサイモグリハナバエ
たまねぎ	白斑葉枯病、軟腐病、乾腐病 ネギアザミウマ、タマネギバエ類、ネギハモグリバエ
ねぎ	さび病、べと病 ネギアザミウマ
にんじん	黒葉枯病
だいこん	軟腐病、モザイク病 キスジトビハムシ
キャベツ	菌核病 コナガ、ヨトウガ、モンシロチョウ
ブロッコリー	コナガ、ヨトウガ
りんご	斑点落葉病、黒星病、腐らん病、モニリア病 リンゴハダニ、ナミハダニ、モモシンクイガ、ハマキムシ類、キンモンホソガ



# 農業試験場で得られる調査情報 [定点調査]

- ・ 道内6カ所の農業試験場内に定点圃を設置
- ・ 病害調査圃では殺虫剤のみ、虫害調査圃では殺菌剤のみを使用して管理
- ・ 調査対象作物数は14、調査対象病虫害数は延べ62
- ・ 病虫害の種類によって、毎日、5日、10日の間隔で調査を実施



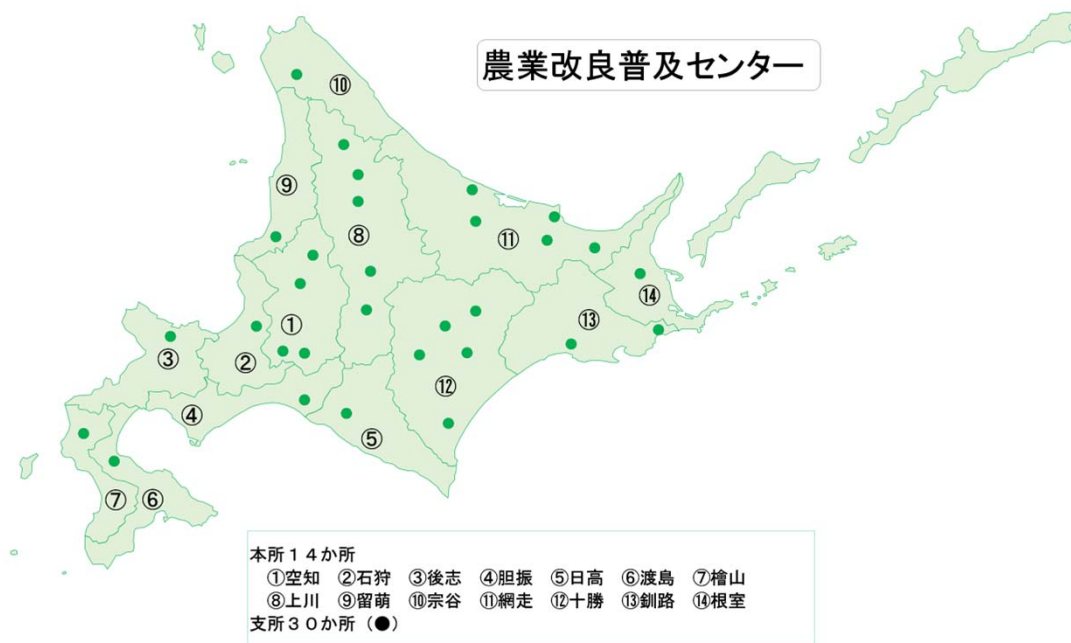
# 農業改良普及センターで得られる調査情報

## 巡回調査

- ・ 生産者圃場での発生状況を、概ね15日間隔で調査
- ・ 調査対象作物数は11、調査対象病害虫数は延べ21

## 現況調査

- ・ 各年次における病害虫の発生状況及び被害状況を把握するため、最終的な状況を判断できる時期に調査
- ・ 調査対象作物数は15、調査対象病害虫数は延べ71



# ■「病害虫発生予察情報」公表までのフローと情報提供先

